

## [成果情報名] 平坦地における冬期どりキャベツの新作型

[要約] 冬期どり寒玉系キャベツの適品種は「冬王」「Y R 万代<sup>ぼんだい</sup>」である。播種適期は8月20日前後で、2品種を組み合わせることで、2月上旬から3月中旬まで収穫が可能となる。本作型は、露地無マルチ栽培であり、適した肥料は普通化成肥料である。

[担当] 総農セ・栽培部・野菜科・五味敬子

[分類] 技術・普及

---

## [背景・ねらい]

県産野菜の供給量は冬期および早春期において少なく、出荷端境期の新たな品目が求められている。当時期の生産が可能となれば、冬期の収入が確保でき農家所得が向上する。

そこで本試験では、冬期どり寒玉系キャベツの安定生産を目指し、適品種の選定、播種適期の把握、効果的な施肥法の検討を行い、平坦地における新たな作型を確立する。

## [成果の内容・特徴]

1. 2～3月の冬期に露地無マルチ栽培で、十分な結球重と可販収量を得られる寒玉系品種は、供試11品種中「冬王」（サカタのタネ）、「Y R 万代」（中原採種場）である（表1）。
2. 播種適期は8月20日前後であり、これより遅れると越冬前に株が十分肥大せず、越冬後の気温上昇により結球することなく抽台する（データ略）。
3. 本作型に適した肥料は、普通化成肥料である。冬期までに株の充実を図るために、肥料成分が早期から溶出する肥料が適している。（表2）。

## [成果の活用上の留意点]

1. 本作型は、露地の無マルチ栽培とし、冬期のトンネルやべたがけも必要としない。
2. 本試験での栽植密度は畦幅150cm（床幅80cm、通路70cm）、株間40cm、条間40cm、2条千鳥植えの3,333株/10aである。
3. 施肥は、N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>Oの各成分量が25kg/10aとなるように全面施用する。
4. 病害虫防除は、定植時の粒剤（殺虫）処理と、その後の病害虫発生に応じた1～2回の防除程度である。生育が冬期に向けての栽培のため、病害虫の発生は、夏秋どり栽培と比べて少ない。

## [期待される効果]

1. 県産野菜の流通量が少ない冬期および早春期に、キャベツの出荷が可能となる。
2. 平坦地での新たな補完品目として、導入可能となる。

[具体的データ]

品種	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
「冬王」 (サカタのタネ) 「YR万代」 (中原採種場)	8/20								

は種 定植 収穫

図1 冬期および早春期どり寒玉系キャベツの新作型

表1 冬期および早春期どり寒玉系キャベツの球重、正常球率、可販収量および収穫期

品種	年次	播種期	球重 <sup>z)</sup> (g)	正常球率 <sup>y)</sup> (%)	可販収量 <sup>x)</sup> (kg/10a)	収穫期間					
						2月			3月		
						上	中	下	上	中	下
冬王	2013年	8月19日	810 ± 26	96.6	2,608						
	2014年	8月20日	1,023 ± 66	100.0	3,410						
YR万代	2013年	8月19日	926 ± 33	96.6	2,981						
	2014年	8月20日	864 ± 49	100.0	2,879						

z)収穫期間の平均値および標準誤差 y)抽台や異常果を除いた可販果の割合 x)球重 × 正常球率 × 栽植密度

表2 肥料の種類の違いによる球重および可販収量

播種期	品種	肥料の種類(N-P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> -K <sub>2</sub> O %)	球重 <sup>z)</sup> (g)	可販収量 <sup>y)</sup> (kg/10a)
2014年 8月20日	冬王	普通化成肥料(8-8-8)	1,023 ± 66	3,410
		CDU化成肥料(15-15-15)	853 ± 46	2,843
		IB化成肥料(10-10-10)	790 ± 53	2,634
		被覆複合肥料(40日タイプ)(14-12-14)	912 ± 48	3,041
		有機複合肥料(6-6-6)	390 ± 38	1,299
	YR万代	普通化成肥料(8-8-8)	864 ± 49	2,879
		CDU化成肥料(15-15-15)	739 ± 37	2,463
		IB化成肥料(10-10-10)	843 ± 38	2,809
		被覆複合肥料(40日タイプ)(14-12-14)	811 ± 37	2,704
		有機複合肥料(6-6-6)	484 ± 32	1,614

z),y) 表1に準ずる。

[その他]

研究課題名：平坦地における主要葉根菜類の冬期および早春期どり栽培技術  
 予算区分：県単  
 研究期間：2013～2014年度  
 研究担当者：中村知聖、赤池一彦、五味敬子